

1月にはパラオ諸島附近からウルン島北側にかけて漁場が形成されたが、漁況は低調。

2月には、ウルン北側よりグリメス島にかけて好漁があり、1日30トン以上の漁獲もかなり見られた。3月にも同海域で活況を呈した。4～6月はビンナガ漁もあり出漁船皆無。今年のビンナガ漁は終了が早く、そのためマリアナ海域への出漁も例年より早かつた。

6月下旬にはウラカス島西方に漁場が形成された。

7月にはテニアン島からウラカス島間に好漁が見られた。

8月には特に下旬アグリガン島～アラマガン島東側に大漁が見られ各船集中した。

9月にもマリアナ列島線東側の方が好漁が見られた。

10月には、漁場重心は列島線東側より西側に移り143°E線に好漁が見られた。

11月には三重県船も南洋方面に出漁し漁場は広く調査され西は132°Eから東は146°E南はN8°にまでおよんだが好漁船は少なく一般に低調であつた。

昭和38～40年の3カ年間を見ると大体同じ様な漁場を形成している。2～3月は最も漁が良く、漁場はN09°～11°E138°～145°の間に形成されている。

89年3月には49cmと64cmにモードを持つ魚群が見られ12月には51cm、59cm、70cmにモードを持つ魚群が見られた。本年11～12月には61～62cmにモードを持つ魚群が主群の様である。

2 本年度ビンナガ漁況について

岩崎 行伸 (東海大学水産研究所)

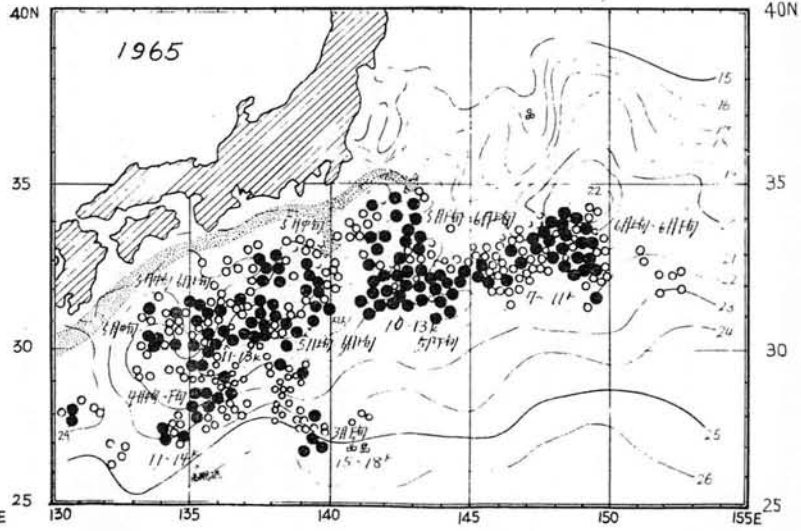
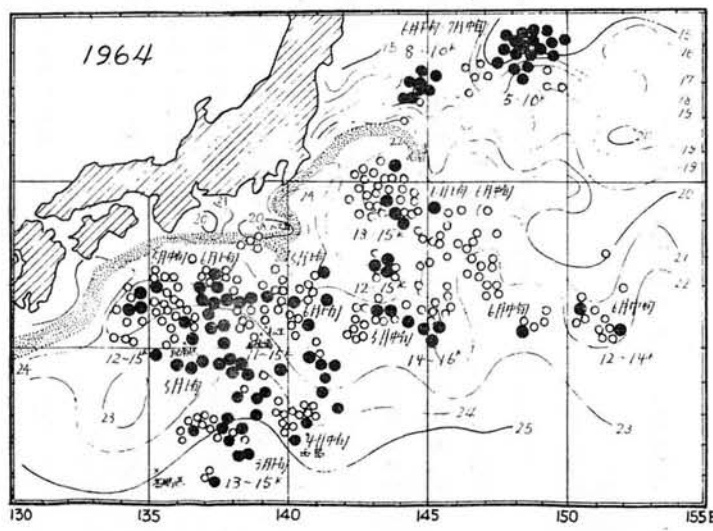
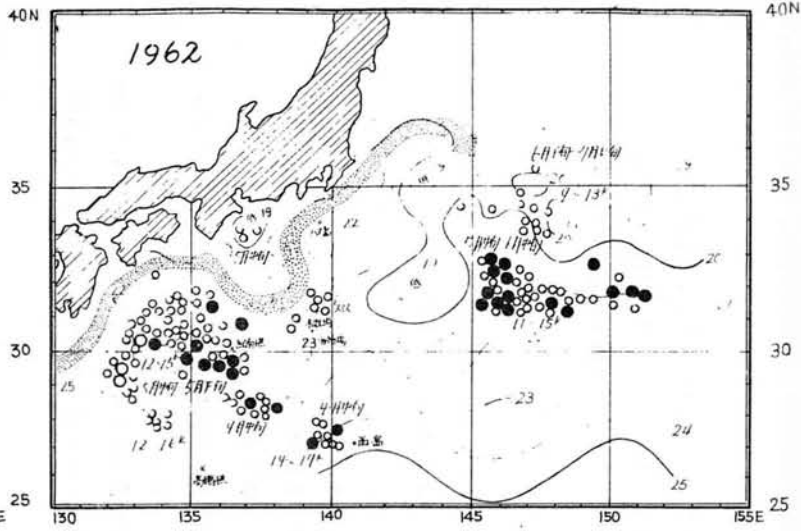
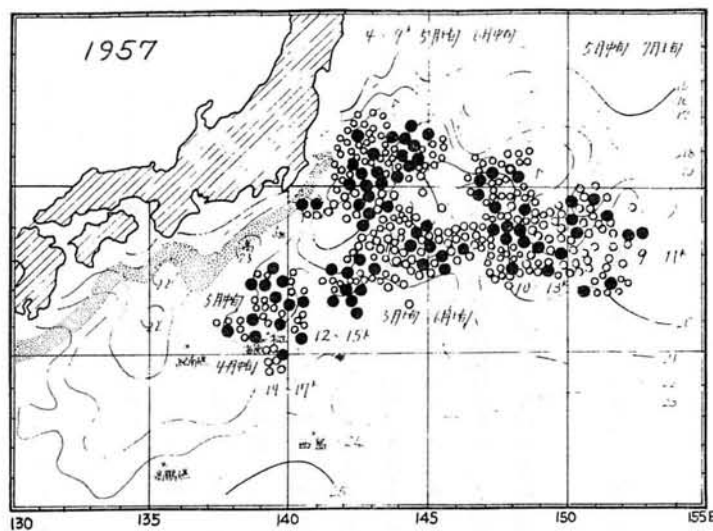
1) 海況概要

本年度紀南海域、房総南東海域の夏ビンナガ盛漁期にあたる5月下旬、気象庁海況旬報表面等温線図による海況概要を述べると、黒潮流路は3、4、5月の時期とほとんど変化が見られず、潮岬沖合を東進し、八丈島と三宅島を結ぶ間を流れ、さらに野島崎南東沖合60～70哩辺を北東に走り、其後、143°E 35'—30'Nを南東に流去している。黒潮反流による南下流は八丈島北方から青ヶ島附近にかけて顕著に認められる。また、南方からの暖流分派は136～137°E、140～141°E、145～146°E、150～151°E辺の間をいずれも北西ないし北北西に顕著に張り出しており、昇温も顕著である。

黒潮流路の表面水温は昨年同期に比較して1.5～2.0°C、平年より1°C前後低目である。また、黒潮流路以南海域では昨年同期より1～4°C、平年より1～2°C低目を呈している。海況の昇温は昨年度よりほゞ30日程遅れており、昨年3月下旬の表面水温分布に似通つた配置を示している。

本年度最多漁獲の表面水温は、3月では19.8～20.5°C、4月19.2～20.4°C、5月20.2～21.8°C、6月21.3～22.3°C、7月22.4～23.8°Cを示し、昨年より1～1.5°C位低い低目の水帯で漁獲された(オ1図参照)。

オ1図 年別別ヒシナガマクロ漁場。



海況—気象庁全国海況旬報 5月下旬。 漁況—清水港入港船資料 3~7月。 漁獲 ○……1000尾以下、●……1001尾以上、 想定黒潮流路

2) 漁況及び漁場形成の概要

紀南海域、房総南東海域の夏ピンナガ漁場の資料は8～7月の間における清水港入港船によるもので、才1図に示すように、3月中旬に平年通り西ノ島附近(139～140°E、26～28°N)で初漁を見、本格的には8月下旬以降漁場が形成された。4月に入り、この漁場は北西に移動しさらに活発化した。4月中旬には高鵬礁北方の134～136°E、27～29°N 辺にて中・大型魚の好漁場が形成され、次々に北上した。5月上旬には2つの漁場は紀南礁、松生場、海徳場(135～139°E、30～31°N)の間に拡大され、常時、鳥付ハネ群となり、全面昇上をしながらさらに北西に移動の傾向を示した。5月中旬には一部、黒潮流路内及び南縁部に沿って形成されており、特に、八丈島、スミス島西方において、1日当たり40トン以上の好漁獲船が数隻あり、近海カツオの大不漁に対して、小型船(39～79tクラス)のピンナガ出漁が目立つた。また、この漁場には静岡、三重、鹿児島県等の中・大

才1表 年度、旬別の魚体重

月・年度 旬	1965	1964	1963	1957
3月下旬	14~20 ^{kg} (14~15 ^{kg})	13~17 ^{kg} (14~15 ^{kg})	16~27 ^{kg} (18~20 ^{kg})	15~27(17~22 ^{kg})
4月上旬	15~19(16~17)	13~17(14~15)	15~23(17~20)	15~22(17~22)
中旬	10~15(11~13)	13~16(14~15)	10~27(15~20)	13~19(15~17)
下旬	10~15(12~13)	12~18(14~15)	12~23(15~18)	13~19(15~17)
5月上旬	10~15(12~13)	9~15(12~13)	5~16(12~15)	3~11(5~6)
中旬	10~15(12~13)	10~16(13~15)	8~23(11~18)	5~15(5~5)
下旬	7~17(12~13)	10~16(14~15)	6~11(7~10)	3~17(5~7)
6月上旬	8~15(9~11)	12~16(14~15)	8~12(9~11)	5~15(5~7)
中旬	7~11(8~10)	12~16(13~14)	7~13(9~10)	4~14(5~7)
下旬	7~11(8~10)	8~15(10~13)	5~15(7~10)	5~15(6~8)
7月上旬	7~11(8~10)	5~12(8~10)	7~15(8~11)	5~15(6~8)
中旬		9~13(10~11)		
下旬		2~8(5~6)		

型船により6月上旬頃まで継続した。特に、紀南海域において、中・大型魚が長期間集中的に漁獲され、大量の水揚げをえたのは1957年以来例を見ないことである。(才2表参照)

紀南海域における漁場形成の位置は昨年同期に比較して50～60哩位北偏した。盛漁期は1ヵ月程早目で、4月上旬から6月上旬までの間であつた。

一方、喜界島附近(130～133°、26～28°)の大型魚ピンナガは4月中旬に初漁を見、本格的漁獲は4月中旬から4月下旬までであつた。しかし、散発的で、漁船は早目に黒潮流路の南縁部及び伊豆列島線附近にまで移動した。

この間、体重3~5kgの小型魚は4月上旬から4月中旬まで、八丈島北東(新黒瀬附近、中心141°-10'E, 33°-35'N)の黒潮流路内で、カツオに混り散発的に浮上し漁獲された。しかし餌付状態は極く不良で、其後、群は東北東に速く移動したもようである。当時、最も東沖の漁場は144°E 34°N線附近に達した。しかし、漁期は短く、大きな漁場は形成されなかつた。

5月下旬に入り、深く潜りがちに移動しつつあつた小・中・大型の(7~13kg)ビンナガ魚群は141~144°E, 31~32°N辺及び147~148°E, 33~34°N辺で、それぞれ前面的に浮上した。そして6月上旬まで好漁場が形成された。しかしながら、この間、5

月25日台風6号が漁場を通過後、漁獲不良になり、魚群は再び沈潜状態となり、各所で散発的のハネ群として発見された。漁船は好漁獲を求めて、新たな魚群の探索に東沖合へと調査し移動した。5月30日、148~149°E 32°N附近に中型魚(7~11kg)を主体とした好漁場が発見され各船の集中するところとなつた。1航海最高120トン、1日当り50~60トンの大漁獲が挙げられた。この漁場は1963年に150~152°E, 31~33°N辺で東海大学丸の調査により発見された大漁場と匹敵する大漁をもたらした。一方、1964年、東北海域(144~145°E, 37~38°N及び147~150°E, 38~40°N)で見られた小型魚(5~8kg)の集中的漁獲は、本年は全く見られず、僅かに7月上旬147°E 37°N辺で体重7~10kgの小型魚の出現を見た程度である。

其後、全般にわたり表面水温の急上昇にもない散発的な漁況となり、7月上旬をもつて終漁となつた。

3) 魚 体 重

旬別の魚体重は才1表に示す。漁期初め、西ノ島、高鵬礁、喜界島附近で漁獲されたものは14~20kg、平年より大型魚が少なく、やゝ小型化した14~15kgのものがその大部分をしめている。紀南海域に移動して、魚体重はほとんど12~13kgのものである。しかし、漁場が北側及び東側に移動するにつれ、中小型魚(7~10kg)が多く混るようになった。特に黒潮流路内では群により魚体差を異にする体重7~17kgの魚群が入り混り漁獲された。

野島崎南東海域は紀南海域で主に漁獲されたものよりさらに体重は小型化し、7~15kgの

才2表 焼津、清水港における夏ビンナガの旬別水揚量 1956~1965年

	1965	1964	1963	1962	1961	1960	1959	1958	1957	1956
3月	377									
4月上旬	1596	533	798	339	573	336	433	662	560	564
中旬	1369	606	568	162	635	439	173	448	839	945
下旬	2565	442	1538	666	637	324	22	540	846	576
5月上旬	2622	625	1724	576	1230	246	127	578	916	925
中旬	3822	2104	1845	735	1873	1158	279	645	1392	1620
下旬	9158	3426	3246	1782	1756	5497	895	1845	3462	2310
6月上旬	8962	1696	4212	1321	2239	5465	558	3240	2256	5170
中旬	4681	565	3041	489	3062	2000	1206	4175	4570	3900
下旬	1403	469	2460	176	2777	1389	2147	1790	4150	4600
7月上旬	78	3766	811	100	919	958	1634	1110	3070	4790
中旬	7	1499	35	57	1140	799	1590	97	321	1740
下旬	2	451	110	110	557	51	1326	8		4
合 計	30205	16118	20283	6996	17400	18859	10380	16180	27396	21744 ※
年間全盛		32118	26420	8729	18636	25156	14252	22175	49500	42812 ※※
全国比率		50	76	81	93	72	71	69	55	65% ※※※
紀南海域量	21509	7736	6473	5585	4948	2503	1929	2228	8095	2540 ※※※

※ 焼津、清水港魚市場調査による。

※※ 農林省統計調査部による。

※※※ 清水港入港漁船の漁況報告により、東経140度線以西(紀南海域)に分けた焼津、清水港魚市場調査による。

範囲内であつた。また、同じ漁場の範囲内にも、漁群により体重を異にし、漁場の北方ではカツオ魚群に混り小型魚（7～10kg）南方では中・大型魚（10～14kg）のものが大部分をしめている。

4) 焼津、清水港における水揚量

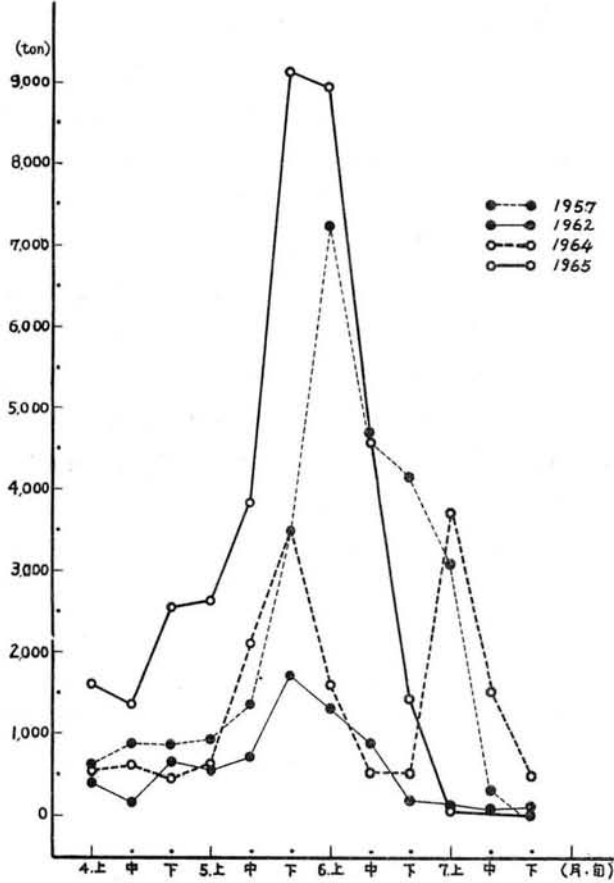
本年度焼津、清水港魚市場の調査による4～7月間の夏ビンナガ水揚量はオ2表に示す。表で見られるように、盛漁期は平年より約1カ月早い4月下旬から6月中旬の間である。

全国の年間水揚量の50%以上は4～7月における焼津、清水港の水揚量がしめている。既往の大量水揚年であつた1956、1957、1964年度はいずれも不

漁年であつたその他の年の比率と比べ低いことがわかる。そして、6月上旬以降野島崎東沖の漁場においては主として小型魚が漁獲の対象となり、大量の小型魚の水揚が焼津、清水港以外の主要港（女川、気仙沼、石巻、塩釜、三崎港）に行なわれたことになる。本年度は上述のように、4月上旬から6月上旬にかけ、例年になく紀南海域において中・大型魚の集中的漁獲が行なわれた結果、過去10年間の記録に例のない空前の水揚が焼津、清水港になされ。この結果、本年度全国の年間水揚量と焼津、清水港の水揚の比率も、おそらく、近年に例を見ない高比率になることは間違いないことである。

5) 出漁漁船の稼働状況

従来、カツオ、マグロ竿釣兼用船は4～7月期のビンナガ操業終了後、夏、秋、冬期には安定した漁獲が得られる南方マグロ延縄操業に転換し、印度洋、太平洋赤道海域へと出漁していた。しかし、1964年夏漁期以降、カツオ、マグロ兼用船は不振をつづけるマグロ延縄操業期間の長期化のため、延縄操業をあきらめ、マリアナ諸島・バラオ諸島周辺の灘カツオ、瀬



オ2図 清水、焼津港夏ビンナガ旬別水揚量。

付カツオ漁場を開発し、出漁するようになった。そして、日本近海及び南洋諸島海域において、周年カツオ操業を行なうようになった。このため、例年ならば、3～4月期の春ビンナガ漁には3～5隻程度の漁船数であるが、本年は20隻に達し、初漁期より漁場は例年に比べて早くから広範囲の調査が行なわれた。また、ビンナガ操業隻数は昨年度まで減少傾向をたどっていた。しかし、本年は10隻の中・大型竿釣漁船の建造にともない、漁船数の増加を見た。さらに、特筆すべきは最新の鮪用魚群探知機が広く活用されたことである。このため、従来見捨てられがちであった沈潜魚群をよく発見し、各船とも魚群を表層に浮上させ、大きな漁獲を見た。加えて、紀南海域、伊豆列島線近海及び野島崎東沖合でのカツオ漁が極度の不振であったためほとんどの漁船は近海のビンナガ漁場にて、中・大型魚を短航海のビンナガ操業を行なった。このように、近年に稀な出漁漁船の増加となり、盛漁期には大・中・小型船(39～330t)により約300隻の出漁船を見た。したがって、紀南海域のビンナガ漁場は広範囲に調査され短期間で空前の大漁を挙げることができるようになった。この反面、漁船の紀南海域の集中化により、野島崎東沖、特に150°E 以東の調査が不十分で、魚群の発見が遅れ、大きく漁場開発は見るに至らなかった。

オ3表 年度、所属県別の稼働隻数

	静岡県	三重	鹿児島・宮崎	茨城・宮城	合計 [※]
1965年 4月10日	37隻	28隻	鹿児島 8隻	茨 31隻	104隻
1964 4/10	25	10	0	29	64
1963 4/8	32	0	0	0	32
1965 5/10	46	36	39	38	159
1964 5/16	28	34	15	34	111
1963 5/15	28	0	15	36	79
1965 6/5	53	55	44	38	190
1964 6/16	30	28	43	24	125
1963 6/3	28	46	32	38	144
1965 7/5	5	30	3	30	68
1964 7/7	10	32	24	28	94
1963 6/20	28	41	29	38	136

※ 100トン以上竿釣船のみ。